

令和8年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第3学年生徒を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 単語の活用について高い水準にあり、基礎的な語句や文法知識が安定して定着している。
- 小説などにおいて、文章の工夫や登場人物の心情を直感的に読み取る力が優れている。
- 目的に応じて必要な情報に着目し、要約することや、資料の引用について課題が見られる。

【数 学】

- 数と式についての問題で、特に文字式の同類項をまとめる計算技能が定着している。
- データの活用や相似・平行線についての問題に対し、正答率が高い。
- 図形の2直線が平行になる条件や、一次関数の関係を式に表す基本的な理解に課題がある。

【英 語】

- 目的に応じて必要な情報や、自分の置かれた状況から判断して情報を聞き取る力が高い。
- 記述を伴う「書くこと」において、正答率や無解答率に課題が見られる。特に社会的な話題を読み、書き手の意見に対する自分の考えを理由とともに書く問題や、身近な話題について、目的や場面に応じてまとまりのある紹介文を書くことに課題が見られる。

2 生徒質問紙に関する結果の概要

- 「学校の授業以外で英語を使う機会がある」と肯定的に回答した生徒の割合は、全国と比べて高く、英語に対する潜在的な興味や意欲が高い傾向にある。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒の割合は高く、基本的な生活習慣の定着が見られる。
- 平日の SNS・動画等の利用時間が長い傾向が見られ、全国と比べても長時間利用の生徒の割合が高い。
- 家庭での端末(PCやタブレット)を用いた英語学習(音声練習や音読など)について、一部の生徒は習慣化しているものの、学習目的での活用に課題が見られる。

3 評価と今後の取組

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 自己選択学習における、自身の課題克服に向けた学習活動
- ・ 校内研修における、全校で取り組んだ、連続させる問いを設定した授業づくり

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 自己選択学習や補充学習のさらなる効果的な運用
- ・ MEXCBT やデジタル教科書などを活用した、ICT 機器を用いた家庭学習課題配信の継続

(2) 生徒質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 相互カウンセリングタイムや帰りの会でのスピーチなどにおける交流活動
- ・ ふくよしタイムにおける個人での探究活動

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 家庭学習がんばりカードによる家庭との連携